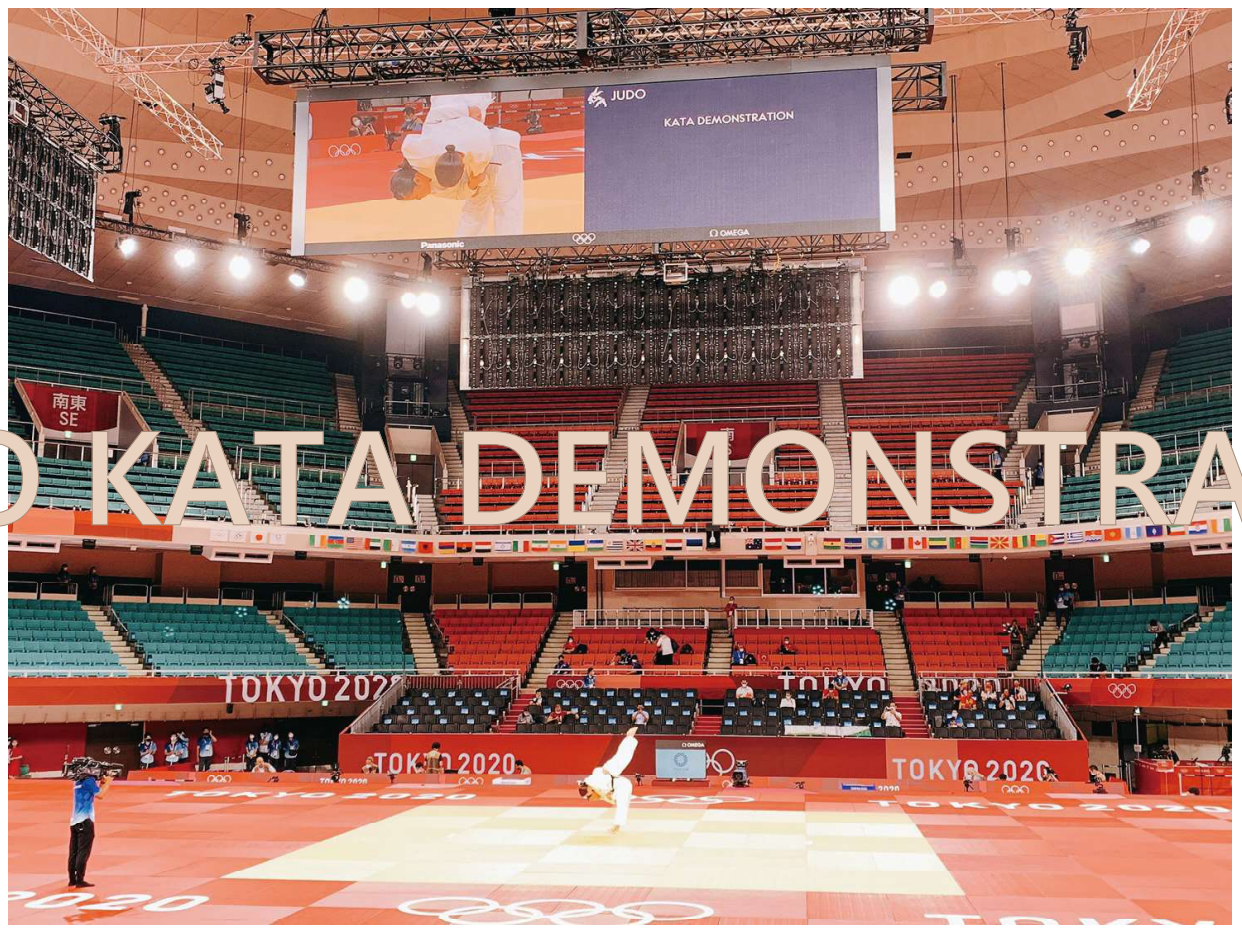
TOKYO 2020



JUDO KATA DEMONSTRATION

現世界チャンピオンとして
「柔の形」演武に抜擢された
本校卒業生 石田姉妹。

世界の柔道家たちが魅了される、柔道の「形」。
日本ではマイナーですが、外国では注目を集めている種目です。

世界形選手権で連続優勝を果たすという輝かしい経歴の
本校卒業生、石田 桃子選手・石田 真理子選手が
東京オリンピックで「柔の形」を演武されました。

右：石田 桃子 さん（姉）
米田柔整専門学校卒業
米田柔整専門学校 教員

左：石田 真理子 さん（妹）
米田柔整専門学校卒業

INTERVIEW

東京オリンピックでの演武はどうでしたか？

東京での開催が決まったときから、オリンピックの舞台で形を披露したい！と夢見ていました。演武が決まり、この日のために練習を重ねてきて、実際にオリンピックの畳に上がったときは感無量でした。そして、一生に一度の舞台を思う存分楽しむことができました。素晴らしい機会を与えていただいたことに感謝しています。この演武を通して、多くの人に形の魅力を知ってもらえたら嬉しいです。

「形」の良さを教えてください！

形とは、あらかじめ順序と方法が決められた練習方法のひとつで、二人一組で攻撃・防御の理合を習得するために行われます。自分と向き合い技を磨くことで、心身ともに鍛えられます。柔の形は緩やかな動作の中にも力強さや迫力のある美しい形です。同じ動きや技でも、試行錯誤して作り上げた選手の個性が出ていて、とても奥深く魅力的です。

01：突上（つきあげ）
受が拳で取の顎を突いてくるところをかわして「腕がらみ」のかたちで制する技です。

02：両眼突（りょうがんつき）
受が取の両眼を狙って突いてくるところをかわして「浮腰」のかたちで制する技です。

03：斜打（ななめうち）
受が取の烏兎（眉間）を狙って打ってくるところをかわし「裏投」のかたちで制する技です。